

東京理科大学・小布施町まちづくり研究所
2008年 展示・研究報告・シンポジウム
「産業・文化とまちづくり～新たな活動拠点の形成」

開催にあたって

小布施町と東京理科大学との協働の場「東京理科大学・小布施町まちづくり研究所」も、お蔭さまで、7月18日に満3歳を迎えました。

今年も、年一回の大きなイベントとして、来る11月1日から11月22日まで、役場2階の研究所で研究活動・ワークショップの成果を展示し、11月15日（土）には、北斎ホールで活動報告会・シンポジウムを開催します。今年の統一テーマは「産業・文化とまちづくり～新たな活動拠点の形成」です。

展示と報告の対象となるこの一年間の研究活動は、「茅葺き屋根」「小布施の栗産業・栗文化の拠点づくりとしての蚕室」「押羽・北岡の里道ネットワークと拠点形成」「はよんば空間再生」「国道の歩道空間の整備と周辺の路地」「酒造空間の活用」「A&P・スミソンの街路=生活空間の思想」「日本の輝く小さなマチと小布施」という8つのテーマで構成されています。

今年で四回目になる栗ガ丘小学校3年生を対象とする次世代ワークショップ「結ぼう！かやぶき屋根」が報告されます。子供たちは、小谷村の茅葺き職人さんによる実演を見て、大人でもむずかしい縄の「結び」を学びました。それから、実際の屋根と同じ結び方で、小さな「マイかやぶき屋根」を制作しました。その模様を、写真や図を用いて報告します。子供たちからもワークショップを通して学んだことや感じたことを発表してもらいます。

シンポジウムのタイトルは「始動！小布施7大プロジェクト」。個人で、あるいは地区でもっている土地・建物を有効に活用して、いま研究所がお手伝いして進行中の産業・文化の振興のための活動にふさわしい拠点を創ろうというものです。一部、研究活動報告でも発表されますが、ここでは、活動の主役である町民の方々に自ら構想と思いを語っていただく予定です。なお、プロジェクトの数は多少変わるかもしれません。

まちづくり研究所も4年目に入って、小布施の産業と文化からのまちづくりに深く関わらせていただくようになっていきます。ぜひ、この機会に研究所、そして北斎ホールに足をお運びください。

川向正人

東京理科大学・小布施町まちづくり研究所長

■ 11月15日 プログラム

13:00～14:00 研究報告（各5分）、質問・講評

「茅葺き屋根」「小布施の栗産業・栗文化の拠点づくりとしての蚕室」「押羽・北岡の里道ネットワークと拠点形成」「はよんば空間再生」「酒造空間の活用」「国道の歩道空間の整備と周辺の路地」「A&P・スミソンの街路=生活空間の思想」「日本の輝く小さなマチと小布施」

14:00～14:15 ワークショップ「つくろう！かやぶき屋根」の報告

14:30～16:30 シンポジウム「始動！小布施7大プロジェクト」

■展示

日時：2008年11月1日（土）～11月22日（土） 10:00～17:00

場所：東京理科大学・小布施町まちづくり研究所（小布施町役場2階）

今年の研究所の研究活動の成果を以下の8つの研究テーマに分けて展示します。加えて、8月に行われたワークショップの様式やその時に制作された「かやぶき屋根」も展示します。

①「茅葺き屋根」

小布施の景観要素の一つである屋根、昨年は瓦を研究しました。地瓦と並んで小布施の伝統的な屋根葺き材である「茅」についての研究発表を行います。茅という材料や屋根葺きの技術についての研究のほかに、小布施では「くず屋根」と呼ばれる藁（わら）で葺かれた屋根が多かったことなど、地域景観との関連も併せて報告します。

②「小布施の栗産業・栗文化の拠点づくりとしての蚕室」

かつて養蚕は、ほとんどの農家で行われていたというほど盛んな産業でした。当時建てられた蚕室は、養蚕にあわせて合理的にできており、その姿には景観的美しささえあります。このような産業と密接に関係した建物を、もう一度産業の中心拠点として再生したいと考え、建物と周辺の敷地について調査を行い、小布施の栗産業、そして栗文化の創出への可能性を探ります。

③「押羽・北岡のネットワーク（里道）と拠点形成」

雁田地区において去年の10月に里道が開通し、本格的な道のネットワークの構築が始まりました。今年は北西部で「押羽・北岡の里道ネットワークと拠点形成」に取り組んでいます。その調査分析と提案内容を報告します。

④「はよんば再生」

押羽地区の「はよんば空間再生」計画では、祭りなどの特別な機会のみならず、日常の生活でも積極的に利用できる多目的なオープンスペースを構想・提案します。

⑤「国道の歩道空間の整備と周辺の路地」

歩道が狭くて歩きにくい国道403号線とその周辺地区に関する研究で、歩道を平坦にし、里道（さとみち）として認定された周辺の路地とつなぐ方法によって、安全でかつ快適な歩道ネットワークを構想・提案します。

⑥「酒造空間の活用」

高度経済成長期、造り酒屋にも機械化の影響が及び、それにともない酒造空間も変化しました。近代化に伴う酒造空間の変化の調査・研究をし、造り酒屋の特徴としてみられる中庭空間あるいは使われなくなった建物などの活用について構想・提案します。

⑦「Smithson 街路空間=生活空間」

街路を単なる移動空間としてではなく地域の生活空間として捉えたイギリスの建築家スミソン夫妻の思想を研究するもので、小布施での道空間の提案に結び付けたいものです。

⑧日本の輝く小さなマチと小布施

現在、研究所で進めている日本各地に存在する小さいが輝いているマチ（人口五、〇〇〇～一五、〇〇〇）の中での小布施についての研究報告です。

■ 研究活動報告

日時：2008年11月15日（土）13:00～14:30

場所：北斎ホール（勤労青少年ホール）

スライドなどを使って、以下の8つのテーマで研究活動を報告します。

- ① 茅葺き屋根（発表者：川井）
- ② 小布施の栗産業・栗文化の拠点づくりとしての蚕室（発表者：勝亦）
- ③ 押羽・北岡の里道ネットワークと拠点形成（発表者：米谷）
- ④ はよんば空間再生（発表者：小幡）
- ⑤ 酒造空間の活用（発表者：馬場、児島、座古）
- ⑥ 国道の歩道空間の整備と周辺の路地（発表者：岸野、安原）
- ⑦ A&P・スミソンの街路=生活空間の思想（発表者：石毛、佐々、杉山）
- ⑧ 日本の輝く小さなマチと小布施（発表者：渡辺）

□ ワークショップ「結ぼう！かやぶき屋根」の報告

（発表者：川井、馬場、児島、座古、古江、栗ヶ丘小学校3年生の児童）

今回で第4回を迎えた栗ヶ丘小学校との共同ワークショップの様態を発表します。今年は屋根葺きに挑戦し、職人さんによる実演をまじえながら大人でも難しい縄の「結び」を体験学習しました。当日は、実際の屋根と同じ結び方で小さな「マイかやぶき屋根」を制作しました。その様態を写真や図を用いて報告します。ワークショップを通して、学んだこと、感じたことを3年生の児童の皆さんから発表してもらいます。

■ シンポジウム 『始動！小布施7大プロジェクト』

日時：2008年11月15日（土）14:30～16:30

場所：北斎ホール（勤労青少年ホーム）

入場無料・予約不要

発表者：理科大学生と住民によるプロジェクトチーム（7チームを予定）

進行役：川向正人（東京理科大学・小布施町まちづくり研究所長）

プロジェクト内容：

- ① 酒造空間の活用と里道プロジェクトとのリンク
- ② 小布施の栗産業・栗文化の拠点づくりとしての蚕室
- ③ 押羽・北岡のネットワーク（里道）と拠点形成
縁側喫茶・カントリーウォーク
- ④ 修景事業部
- ⑤ 小布施丸なすとブランドづくり
- ⑥ 浄光寺 豆文化と雁田地区のまちづくり
- ⑦ 工業団地の景観づくり